灘

平成二十年度　灘中学校入学試験問題　国語　二日目　五枚のうちの一枚目

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権上の都合により文章の掲載はできません

著作権上の都合により文章の掲載はできません

問一　――線部A～Hのカタカナを漢字に改めなさい。

問二　――線部1「日常生活でそれが習慣になりきっているため」の「それ」が指すものは何ですか。答えなさい。

問三　――線部2「無関心は、近代化された社会に生きる現代人の一大問題である」とありますが、現代人が「無関心」であるのはなぜですか。その理由にあたる部分を、これ以後の問題文中から解答らんに合わせて二か所ぬき出しなさい（それぞれ二十五字以内、四十字以内の部分とします）。

問四　――線部2で、「無関心」であることが現代人にとって「一大問題」であるのはなぜですか。答えなさい。

問五　X に入れる言葉として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア　人間　イ　物　ウ　死体　エ　私　オ　姿

問六　――線部3「しばらく住んでみて、友達付き合いが始まると、当初の印象、判断は一変した」とありますが、筆者の印象・判断はどういうふうに変わったのですか。次の説明文の a ～ d に適当な語句を答えなさい。

a をもって暮らしていることに対して、はじめは b と思っていたが、しばらく住んでみるとだれもが c ことに対して、 d と感じるようになった。

問七　――線部4「本質的な違い」とありますが、どのような違いが生じたのですか。最も適当な一文を問題文中からぬき出し、始めの五字で答えなさい。

問八　――線部5「まだまだブータンには時間がある」について、「時間がある」ことにはどのような利点がありますか。これ以後の問題文中から最も適当な一文をぬき出し、始めの五字で答えなさい。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ねえ、聞いてるの。」

一生懸命昼間のできごとを報告しているのに、新聞を読みながら生返事をしている夫に、妻はよくこう聞く。たいてい、夫は新聞から目を離さないまま、「ああ、聞いてるよ。」と面倒くさそうに答える。この答えに妻は不満である。

自分のことばが相手の胸に届いていないと感じるのは、さびしいことだ。相手に向かって話をするとき、そのことばをただ音として耳で「聞く」のではなく、心で「聴いて」ほしいのだ。[1]

「聴く」という字は、耳偏に十四の心と書く。一説には、十四歳の感受性で相手のことばを受けとめることが「聴く」ということだという。聴いてほしいというのは、ことばに託した自分の「存在」を、みずみずしい感受性で丸ごと受けとめてもらいたいという、人間としての切実な欲求なのだ。新聞を読みながらの生返事で満たされる欲求ではないのである。

インタビューを仕事としている私は、「聴く」とはどういうことなのか、昔から、いつも頭の片隅でぼんやりながら考えていたらしい。気づくと、「聴く」ことにまつわる新聞雑誌の記事の切りぬきが、やたらにふえている。そんななかで感じるのだが、最近、とくに「聴く」ことへの関心が高まっているように思う。

灘

平成二十年度　灘中学校入学試験問題　国語　二日目　五枚のうちの三枚目

ある日の新聞では、作家の田口ランディさんの「聴くことから始めよう」というエッセーを載せていた。

「しゃべるという行為が[2]自我を肥大させるのに対し、聴くことは自分の存在を小さくする。消え入るほど自分が小さくなった瞬間に、インスピレーションが得られる。空っぽになって人の話を聴けなくては、この先私は何も書けないだろう。聴くことこそ、私の表現の原点だ。」

という趣旨のことが書かれていた。

この日、このコラムの隣は「児童虐待、霊長類の行動研究から見ると」という記事だった。霊長類の研究をしている学者が、「動物の世界にも子殺しはあるが、自然界では普通他人の子を殺す。だが、集団から隔離され、人間に飼育されたサルはわが子を殺すこともある。最近の児童虐待や子殺しは、仲間とも子供ともつきあう術を知らない隔離飼育ザルに似た行為に思える。」と書いていた。

この日の紙面の隣り合った二つの記事から、なぜいま「聴く」ことへの関心が高まっているのか、その理由が、じつに鮮明にうかがえるような気がした。

家族や地域社会のなかでのつながりが薄れ、だれもが孤立している。落語に出てくる横町のご隠居のような相談相手もいない。女房同士、井戸端会議で亭主の悪口を聞いてもらったりするような関係も失われている。夫婦、親子のあいだでさえ、あわただしく、すれ違いの生活。「聴きたい」「聴いてほしい」という欲求は満たされることがない。だからこそ、社会的に「聴く」システムが求められているのかもしれない。

以前、薬物依存からのリハビリテーションセンター、「日本ダルク」を主宰しておられる[3]近藤恒夫さんにお話をうかがったことがある。

依存症の人たちが立ち直るきっかけは、毎日のミーティングに参加することだという。そこではまず他人の体験を「聴く」ことからはじめる。そして、聴きつづける。そうすることで、約九五パーセントの人が回復するという。

ミーティングに参加するまでに時間もかかるし、コトはそう簡単ではないが、それでも「聴く」ことが依存症からの回復に大きな効果をもつことは間違いないらしい。いったいどういう心の仕組みがあるのか、不思議だ。

近藤さんのを要約すると、「苦しいのは自分だけじゃないんだ、あの人も頑張っているんだから自分も頑張ろう。」と思えるようになるらしい。だからこそいま、交通事故や犯罪の被害者、同じ病気を患う人など、さまざまな人たちが横につながる「会」が結成されているのではないだろうか。それぞれの会で、自分と同じ体験をした人の話を「聴く」ことが、聴く本人の心を癒やすのだ。

一方で、[4]「聴いてもらう」話し手側もまた、そのことで救われているらしい。阪神淡路大震災のとき、仮設住宅で暮らす人々の話をただ聴いてあげることが、ボランティアの大切な活動の一つであり、それが被災者の大きな支えになったということはよく知られている。

「聴いてもらう」ことで、人はなぜ癒やされるのか――。

私は日ごろ、美術番組を担当している。毎週、絵や彫刻や工芸など、さまざまな分野のアーティストに会って話を聞く。そもそも、そういったアートというのは、ことばにならないものを表現している。にもかかわらずテレビの番組にする以上、やはり作者自身から何を表現しようとしているのかを聞かざるをえない。いつも[5]申し訳ないと*忸怩たる思いでうかがっている。

それでも作家たちは、なんとか自分の内側を探って、ことばで表現しようと努力してくれる。なかには「こんなこと、ことばでは説明できないと思っていたけれど、インタビューされるのをきっかけに、いままでの自分を振り返り、整理することができました。また新しい出発ができそうです。」とお礼をおっしゃる方もいる。

ことばにするということは、自分のなかでモヤモヤと漂ってまだことばになっていないものを見つめ、整理することだ。悩みのなかに在る人が、自分のなかの苦しさ、悲しさ、不安などをことばにすることによって、自分を客観的に眺めることができる。自分を突き放すことで初めて、嘆きの渦から自分を救うことができるのだ。

だが、自分の内面を言語化するのは面倒な、苦しい作業だ。一人ではできない。聴いてくれる人の「聴く耳」があってこそ、できる。ひたすら「聴く」という行為には、その人の存在を丸ごと受けとめるという意味のほかに、その人が［　X　］のを手助けするという側面もあるのかもしれない。

本来あったはずの絆が失われている時代だからこそ、いま、あらためて「聴き合う」関係をもつことの大切さが痛感される。

（山根基世『「ことば」ほどおいしいものはない』による）

注　忸怩――はずかしく思うようす。

問一　――線部1「心で『聴いて』ほしい」と同じ内容を表す表現を、問題文中から四十字以内でぬき出し、始めと終わりの三字を答えなさい。

問二　――線部2とありますが、「空っぽになって人の話を聴」くとはどうすることですか。自分の言葉で答えなさい。

問三　――線部3とありますが、他人の体験を聴きつづけることで、依存症の人たちが回復するのはなぜですか。理由を答えなさい。

問四　――線部4とありますが、話し手側はなぜ「聴いてもらう」ことで救われるのですか。問題文中の語句を利用して答えなさい。

問五　――線部5「申し訳ない」とありますが、筆者は何を「申し訳ない」と思っているのですか。五十字以内で答えなさい。

問六　［　X　］に入れるのに適当な語句を、問題文中から十二字以内でぬき出しなさい。

三　次の詩を読んで、下の問いに答えなさい。

問一　――線部1「家族」とありますが、この詩からは何人家族だと読み取れますか。漢数字で答えなさい。

問二　――線部2「かぶりを振るばかり」だったのはなぜですか。理由を二十字以内で答えなさい。

問三　二つの［　3　］には同じ言葉が入ります。自分で考えて答えなさい。

問四　――線部4「そんなこと」の内容を三十字以内でまとめなさい。

問五　――線部5「今という貴重な時間」を具体的に示しているものを、詩の中から十字以内でぬき出しなさい。

問六　――線部6「だからこそきっとおまえは／あのとき涙を流したのだ」と、「おれ」が分かったのはなぜですか。その理由を詩中の語句を用いて答えなさい。

問七　この詩は旅の終わりを題材としているのに、「旅立ち」という表題がついています。この「旅立ち」が暗示することとしてはいくつか考えられますが、そのうちの一つを答えなさい。

著作権上の都合により文章の掲載はできません

訂正

平成二十年度　灘中学校入学試験問題

国語　二日目

一枚目

［X］の2行後

「雪ですべってて、」→「雪ですべって、」

――線Cの前の行

「監視するわけでもなく、するわけでもないが、」

→「監視するわけでもないが、」

――線Eの次の行

「大きな石が突き出しているもされていない」

ほそう